



大塚だより

令和8年3月2日

校長 木村 利男

「未来へ続く、ことばのバトン」

校長 木村 利男

元気ですか!!!

令和7年度も、いよいよ残り1か月余りとなりました。この一年間、幼児児童の皆さんはさまざまな学習や行事に取り組み、友達との関わりを通して、多くのことを学び、一人一人が確かな成長を重ねてきました。

以前、学校だよりでは「言葉と心が育つ夏」と題して、「ことば」の大切さについてお伝えしました。「ことば」は、人と人をつなぎます。「ことば」は、自分の思いを形にします。そして「ことば」が未来をつくります。音声、手話、文字、表情、まなざし、すべてが大切なコミュニケーションです。

この一年間、皆さんは授業・保育や友達との関わりの中で、たくさんの「ことば」を学び、伝え合い、心を通わせてきました。その積み重ねが、皆さんの力となり、未来を切り拓く土台となっています。

昨年開催された東京2025デフリンピックでは、多くの選手が世界の舞台で活躍しました。競技場では、選手たちは音声、手話や視線、表情、そして全身で思いを伝え合い、互いに理解し合いながら競技をしていました。

「ことば」は、聞こえる・聞こえない・聞こえにくいを超えて、人と人を結び、世界とつながる力をもっています。皆さんが今、学校で学んでいる「ことば」の力も、将来、必ず社会で生きていきます。

さて、本校は、今年、創立100周年という大きな節目を迎えます。

100年にわたり、先輩方は「ことばを育てる教育」を大切に、聴覚に障害のある子供たちの未来を支えてきました。その歴史の上に、今の大塚ろう学校があります。皆さんは、その100年のバトンを受け取り、次の未来をつくっていく存在です。一緒に取り組んでいきましょう。

いつもお伝えしていることですが、「児童のみなさん、夢をもっていますか。」そして、「その夢に向かって努力を続けていますか」。夢は、思っているだけではかきません。実現するためには「行動」が必要です。毎日の学習に向き合うこと。新しいことに挑戦すること。自分の思いを、「ことば」で伝えようとする。その一步一步が、夢へとつながっていきます。

うまくいかないことがあっても大丈夫です。皆さんの周りには、友達、家族、そして先生方がいます。皆さんは決して一人ではありません。安心して、自分の力を信じて前に進んでください。

今月18日19日幼稚部修了式、24日小学部卒業式が行われます。修了生卒業生の皆さん、修了、卒業おめでとうございます。

大塚ろう学校で身に付けた「ことば」の力、考える力、そして仲間と支え合う心は、これからの人生を切り拓く大きな力になります。自信をもって、それぞれの道を歩んでください。心から応援しています。

在校生の皆さんは、4月から一つ上の学年に進級します。新入生を迎える先輩として、自分の役割を意識し、さらに成長していきましょう。学習にしっかり取り組み、基本的な生活習慣を整え、仲間を大切にすることが、皆さんの未来を支えます。

最後に、保護者の皆さま、この一年間、本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。大塚ろう学校は、聴覚に障害のある子供たちが、将来の社会参加・自立に向けた確かな力を身に付ける学校です。ことばを育み、心を育み、一人一人の可能性を広げる教育を、今後も専門性をもって推進してまいります。

一年間、本当にありがとうございました。

来年度も、「元気ですか!!!」「元気でーす!!!」と笑顔で語り合える学校を目指してまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

学びのひとこま —各キャンパスの活動から—

6年生合同修学旅行 ～本校・永福・城東3キャンパス合同～

小学部6年生は、2月20日(金)に3キャンパス合同で修学旅行に行ってきました。旅行先は江の島・鎌倉です。新江ノ島水族館に到着すると、目の前に広がる青い空と広い海に、子どもたちは大興奮でした。水族館の中では、班ごとに決めたルートで自由に見学しました。楽しみにしていたイルカショーでは、イルカのダイナミックなジャンプや技に、子どもたちから大きな歓声が上がりました。昼食を済ませた後は、江ノ電で長谷駅へ移動し、鎌倉大仏を見学しました。事前学習で大きさを予想していたものの、実際の迫力と荘厳さに子どもたちは圧倒されていました。大仏の内部も見学し、どのように作られているのかを目の当たりにできたことは、貴重な経験となりました。

最後は小町通りでお土産タイムです。グループでお店を回りながら、家族や自分へのお土産を探しました。限られたお小遣いの中でやりくりするため、値段を計算しながら計画的に買い物を楽しむ姿が見られました。

修学旅行も終わり、いよいよ卒業に向けてラストスパートです。卒業まで残り約3週間。一人一人が自信をもって晴れやかに卒業できるよう、担任一同、精一杯サポートしていきます。



片瀬江ノ島駅前



電車内



高德院(鎌倉大仏)

城東分教室 ～乳幼児教育相談 グループ活動～

ひよこ組では、0、1、2歳児のお子さんと御家族の皆さんが集まって、同年齢でグループ活動を行っています。毎回、お子さんがお家でどんな遊びを楽しんでいるか、コミュニケーションが広がる遊びは何か、などを保護者の皆さんと話しあって活動を決めています。その時々季節の行事やお子さんが夢中になれることをテーマにして、おうちでお子さんと一緒に準備を行うところから、活動がスタートします。

すべての活動を通して、親子のコミュニケーションを大切にしています。特にごっこ遊びは、イメージが膨らみ、自然とコミュニケーションが広がる遊びです。活動終了後の懇談では、保護者の皆さんと一緒にお子さんの変化や成長、気づいたことを共有します。「うちの子はこんなことができるようになっていた」「こうやってコミュニケーションをとったら伝わりやすかった」など、話題は尽きません。

みんなでみんなを育てる場、子ども大人も一緒に育つ場であることが、ひよこルームの願いです。すてきなロールモデルの方々も毎回参加して、笑ったり泣いたり、お子さんの元気な声が響きます。



ハロウィン 驚かすぞ～



まめまきごっこ おにが来た！



パン屋さんごっこ どれにしようかな

本校 ～道徳地区公開講座～

2月18日(水)道徳地区公開講座を行いました。

小低部は自分の行動などを振り返り、自分を大切にすることの大切さについて学びました。

小高部では、自分一人で生きられるわけではないことから、相手がどんな気持ちになるのか相手の立場に立って物事を考えて行動することの大切さについて学びました。

4組では、命の大切さに気付き、愛されて育ててもらったことへの感謝の気持ちを伝える活動をしました。

講演会の講師には、昨年度と同様に本校スクールカウンセラーの中澤博美先生をお招きし、「子どもの心と成長を守る～私たち大人ができること～」をテーマに、保護者や学校がどのように子どもたちの成長に働きかけることができるのか、どのような支援をしていくことが必要になっていくのかを具体的な実践例を交えてご講演いただきました。

学校が安心して過ごせる場所であることを願っているのは、教員も同じです。3月も中澤先生は来校されています。一度お話をされてみることで気づきや変わるきっかけになることもありますので、一人で抱え込まずに利用してみてください。

永福分教室 ～楽器に親しむ会～

2月27日、体育館にて「楽器に親しむ会」を開催しました。今年も“虹色アンサンブル”の17名をお迎えし、幼稚部・小学部・ひよこ組、そして多くの保護者の皆様にも御参加いただきました。オープニングではみんなが大好きな「さんぽ」が演奏され、続いて弦楽・木管・金管のアンサンブルが披露されました。各アンサンブルでは、楽器ごとの音の出し方や特徴について、演奏者の皆さんから丁寧な説明があり、子供たちは真剣な眼差しで耳を傾けていました。スタジオジブリやディズニー映画、TV アニメのテーマ曲といった、子供たちにとって親しみ深い曲がたくさんあり、自然と体を揺らしながら楽しむ姿も見られました。特に盛り上がったのは「楽器体験」でした。本物の楽器に触れる貴重な機会に、どの子も笑顔を浮かべていました。最後は「ジャンボリーミッキー」を全員で踊り、会場が一体となって楽しむ温かな時間となりました。



【お礼の手紙】すてなえんそうでした。
ぼくはトトロのメドレーがすきでした。
楽器体けんでコントラバスをひかせてもらいました。楽しかったです。ジャンボリーミッキーのえんそうで楽しくおどれました。

経営企画室から

- 学校徴収金の精算書・就学奨励費の支給明細(3月分)は3月下旬に配付予定です。
- 来年度(4月)に提出していただく書類、4月からの学校徴収金のお知らせ等を封筒にまとめ、3月中旬頃にお配りします。内容を御確認いただき、提出期限に間に合うよう御準備ください。
- 4月1日(水)は新年度学校徴収金の初回振替日です。

表彰

<全国聾学校作文コンクール>

令和7年度第20回全国聾学校作文コンクール 入賞

城東分教室5年 井岡 煌陽さん「コミュニケーションのかべ」佳作

城東分教室3年 平尾 彩乃さん「わたしがそだてたアゲハ」佳作

<令和7年度東京都教育委員会児童・生徒等表彰式>

令和7年度東京都教育委員会児童・生徒表彰において、城東分教室小学部6年生の中島莉希さんが表彰されました。日頃から熱心に読書活動へ取り組んでいることや、作文コンクールでの受賞歴が高く評価されたものです。

また、2月6日(土)に都庁で実施された表彰式では、代表としてスピーチを行う大役も務めました。

